

経営比較分析表（令和6年度決算）

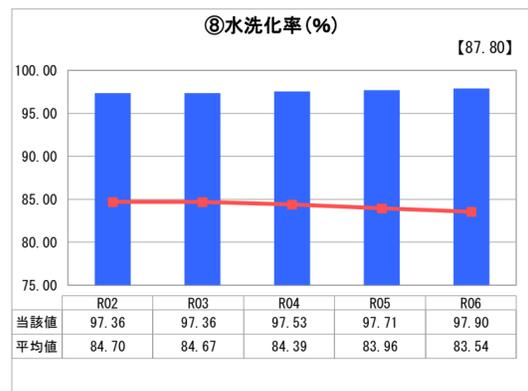
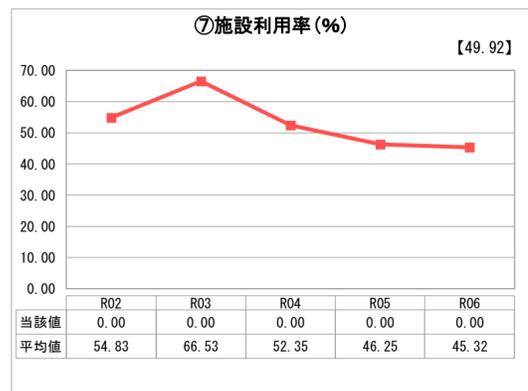
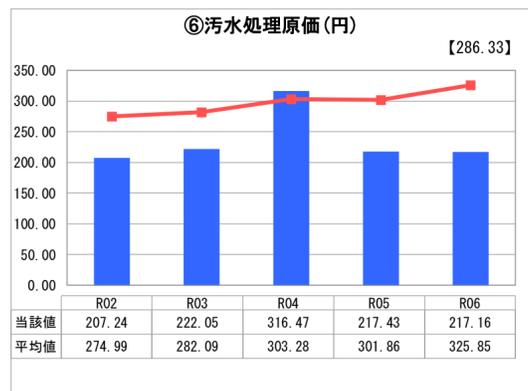
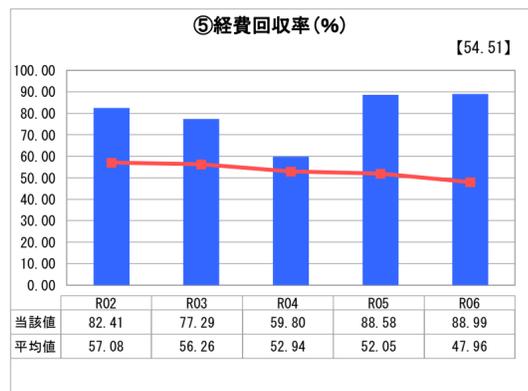
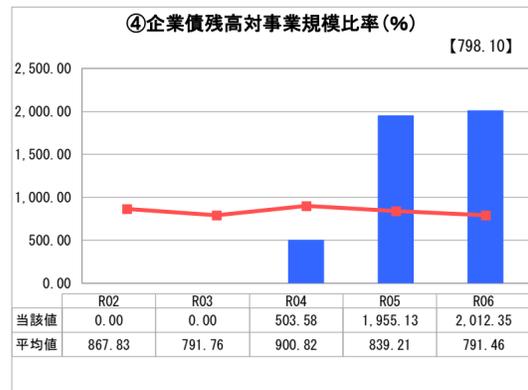
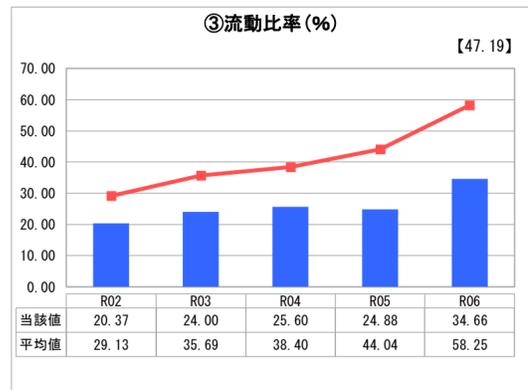
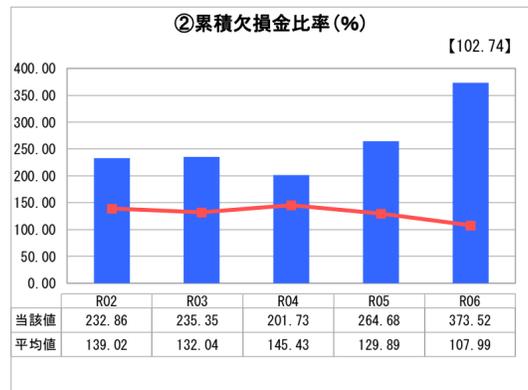
兵庫県 相生市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	35.51	11.68	88.17	3,270

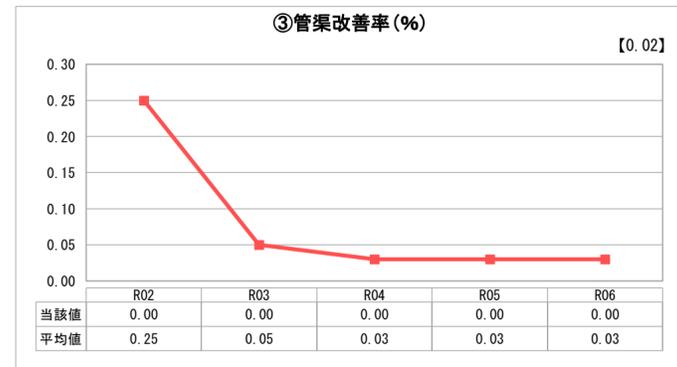
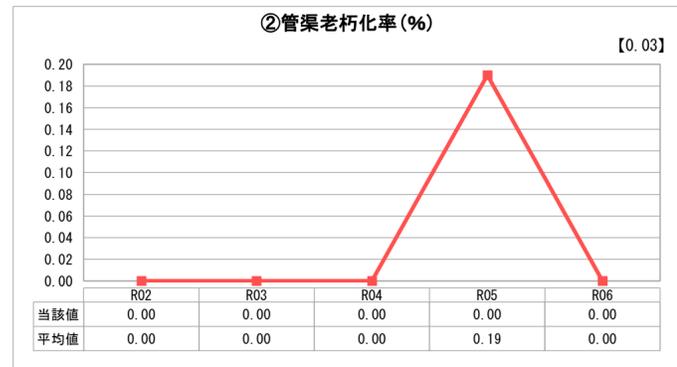
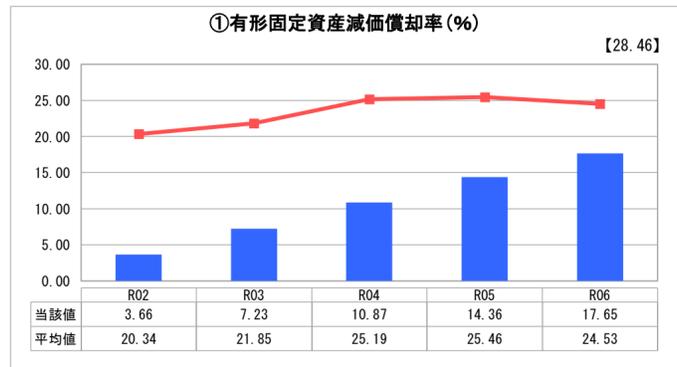
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,058	90.40	299.31
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,140	1.37	2,291.97

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【経常損益】
経常収支比率は、100%を下回っているため、収支均衡に向け今後も更なる改善を図る必要がある。

【支払能力】
流動比率は100%を下回っているが、年間を通じて定期的に安定した使用料収入があるため数字以上の支払い能力を有している。

【使用料水準の適切性】
経費回収率は、類似団体平均を上回っているが、100%を大きく下回っているため、定期的に適正な使用料水準を検証していく必要がある。

【費用の効率性】
汚水処理原価は、類似団体平均値を下回っているが、引き続き経費については妥当性を検証していくとともに、有収水量は減少傾向であるため、事業統合等の検証を進めていく必要がある。

【施設の効率性】
水洗化率は、類似団体平均値を上回っているが、100%に近づけるように、引き続き啓発活動を続ける必要がある。

2. 老朽化の状況について

施設全体の減価償却の状況

【管渠の経年化の状況】
【管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況】
平成9年から随時供用開始された事業であり、供用開始後20年以上が経過しているが耐用年数を経過した管渠はない。

現時点では適切な維持管理を行うことで施設の延命化に努めながら、施設更新に向けて検討し、計画的な更新を実施していく。

全体総括

本事業は、平成9年から供用開始し、水洗化率は97%となっている。

今後、人口減少による使用料の減少や施設更新に伴う支出の増といった要因により、経営状況は益々に厳しくなることが予想される。

今後は、事業統合等も含めた施設の最適化の検証を進めるとともに、財政状況の健全化、また経営状況の安定化を図りながら、「経営戦略」に沿った計画的で合理的な事業運営を行い、経営改善に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。